



急性期から回復期、生活期まで “CURE-KOBE”で つながるリハビリテーション

内部障害や複数の慢性疾患を抱える患者の、予後の向上や再入院の防止のため、継続した丁寧なリハビリテーションが求められています。神戸市では、行政や地域の医療関係者等で「CURE-KOBE」を設立し、全国に先駆け、リハビリテーションを軸に健康寿命の延伸を目指す取り組みを進めています。

- 01** 施設登録・研修受講にかかる費用は？

登録・年会費無料です。CURE-KOBE参加にかかる施設・個人の費用負担は一切ございません。
- 02** どんな施設が会員になれますか？

神戸市内の医療・福祉に関わる施設が対象です。
- 03** どんな施設が登録していますか？

急性期・回復期病院やクリニック、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、デイサービス、薬局から登録いただいています。
- 04** ICTを活用した情報共有は、具体的にはどのようにしていますか？

個人情報保護の観点から厚生労働省のガイドラインに準拠したセキュリティを確保しているクラウド型EHRである「バイタルリンク®」を活用しています。
※厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン（第5版）」等が要求する「2要素認証」に準拠するとともに、SSL/TLS通信によってセキュリティを確保しています。
- 05** 研修の概要は？

Web研修は疾患別研修と医療介護連携の運用を中心にアーカイブ化しています。これに加えて実地研修も行っています。
- 06** 施設会員でなくても研修受講登録できますか？

はい。兵庫県内で勤務されている方であれば、どなたでも研修受講登録可能です。
- 07** 過去の研修内容を確認できますか？

はい。①兵庫県内在勤者、②研修受講登録された方、のいずれの条件も満たす方であれば、2022年1月から実施しているCURE-KOBE主催の研修会等のアーカイブ動画をいつでも視聴できます。



取り組みの背景

急速な高齢化の進展により、2040年には65歳以上の人口が全人口の約35%を占めると推計されています。また、医療技術の進歩に伴う死亡率の低下や疾病構造の変化により、心疾患や呼吸器疾患等に代表される内部障害（循環・呼吸・腎尿路・消化等）の患者が増加しています。さらに、心不全、糖尿病、COPD（慢性閉塞性肺疾患）等の慢性疾患を複数併存するマルチモビディティ（多疾患併存）が高齢者医療の大きな課題となっています。東京都健康長寿医療センターの調査では、後期高齢者の約8割が2疾患以上、約6割が3疾患以上の慢性疾患を併存していると報告されています。

つなぎ、続けられるリハビリテーションのメリット

これまでは急性期、回復期、生活期の各治療ステージ間でのリハビリテーションの連携が十分でないことにより、円滑に移行できず、結果として再入院や日常生活動作の低下につながるがありました。リハビリテーションをつなぎ、継続して行うことは、重症化予防や再入院の防止、その人らしい人生を送れる時間を増やすことにつながります。

CURE-KOBEこれまでの実績 (2026年1月末時点)

登録施設数 **85** 施設

プログラム実施人数 **439** 名

研修受講者数 **2,000** 名以上

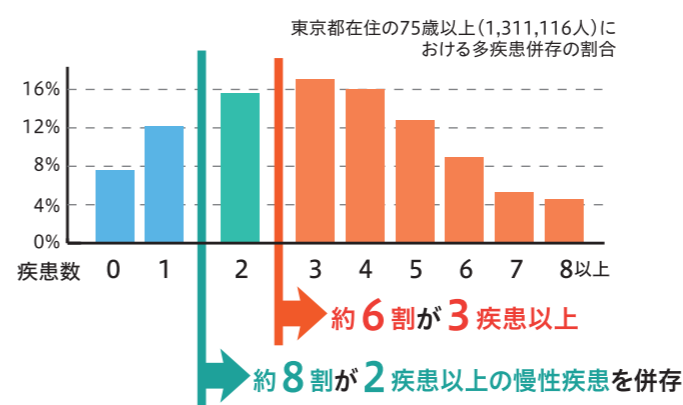
登録施設の詳細は ▶ <https://cure-kobe.net/jigyousha/>



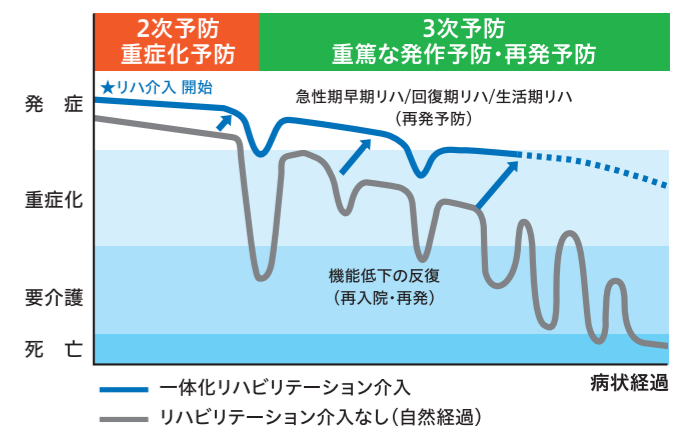
施設登録・研修受講登録 ▶

詳しくはCURE-KOBE公式サイト (<https://cure-kobe.net/>) へ

多疾患併存 (Multimorbidity) の状況



急性期から生活期までの 一体化リハビリテーションによる予防



2025年改訂版 心不全診療ガイドラインを参考に作成

出典:Mitsutake S, et al. Prev Chronic Dis. 2019;16:180170

CURE-KOBEがどんなことをしているのかは次ページへ



CURE-KOBEとは

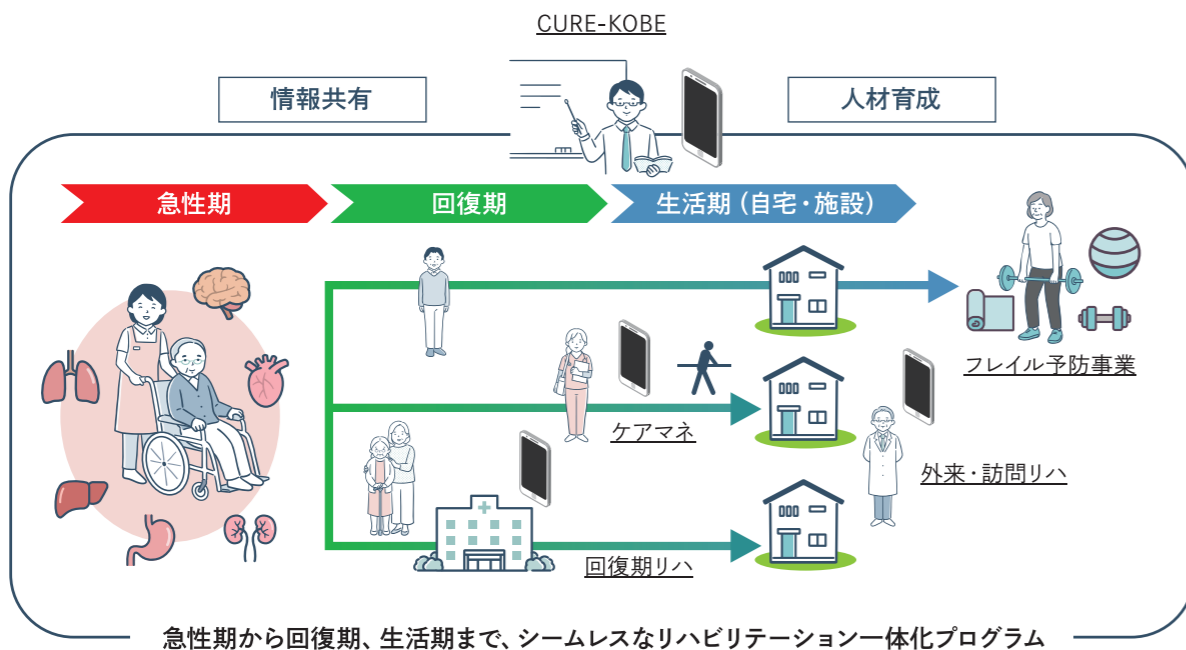
- CURE-KOBEは「神戸地域一体化リハビリテーションコンソーシアム」の通称であり、高齢者の生活の質の向上及び健康寿命の延伸のため、疾患を問わず、急性期から回復期、生活期へとシームレスな一体化プログラムを運用し、リハビリテーションを軸として多職種が介入した、地域包括ケアを実現することを目的としています。
- 神戸在宅医療・介護推進財団と神戸市が事務局となり、医療・介護の専門職団体や有識者とともオール神戸の体制で取り組んでいます。



具体的な取り組み

1 一体化プログラムの構築・運用

急性期から回復期、生活期までを一体化し、切れ目のないリハビリテーションを提供します。身体機能評価に加え、患者報告アウトカム（PRO：Patient-Reported Outcome）を標準評価として導入し、医療者視点の評価と患者視点の評価を統合して管理します。これにより、治療の「量」のみでなく、社会参加まで見据えた生活の「質」に着目し、患者中心のリハビリテーションを実現します。



メリット

- ▶ 疾患を問わず患者の重症度にあわせて適切なりハビリテーションが提供できます。

具体的な取り組み

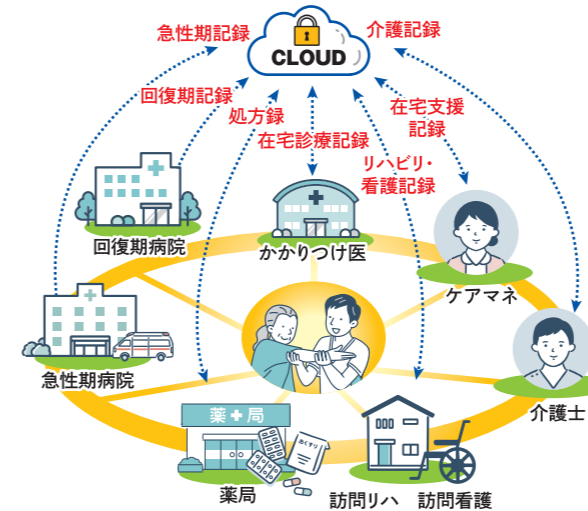
2 ICTを活用したシームレスな情報共有



一体化プログラムの運用にあたっては、クラウド型EHRを活用し、急性期から回復期、生活期までのシームレスな情報共有や多職種連携を図ります。

※EHR（Electronic Health Record：電子健康記録）：
個人の医療情報を電子的に記録し、異なる医療機関で横断的にその情報を共有・活用する仕組み

多職種間で「診る」「連絡する」ポイントを共有できます。



CURE-KOBE ID ○○○○○○○○○○	
医師 病状、併存症、診療のポイント 治療方針	看護師 看護ポイント 特殊医療
理学療法士/作業療法士/言語聴覚士 リハビリテーション内容 生活上の注意	医療ソーシャルワーカー/地域連携 在宅支援
ACP 病状理解 患者の希望 代理決定人	薬剤師 服薬の注意点
	セルフマネジメント 循環器 呼吸器 脳神経

メリット

- ▶ 病院の費用負担なくクラウド型EHRを導入でき、多職種間の情報共有やリハビリテーションの経過の一元管理が可能になります。
- ▶ 患者自身が病態や回復の見通しを理解することで、生活習慣の改善等の行動変容をうながすことができます。
- ▶ 心不全再入院予防継続管理料や介護支援専門員連携加算等の算定要件を満たしやすくなり、地域連携の強化につながります。

具体的な取り組み

3 医療スタッフの育成と相互連携



適切なりハビリテーション医療を担えるよう、兵庫県内に在勤の方（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医師・看護師・地域連携担当職等）が無料で受講できるWeb・実地での研修を実施しています。

メリット

- ▶ 受講登録をいただくと、研修会等のアーカイブ動画がいつでもオンラインで視聴できます。
- ▶ 研修会・講演会の情報やCURE-KOBEに関する情報をメール等でお送りします。